

平成 5 年度

市内遺跡発掘調査報告書

1994. 3

前橋市教育委員会



例　　言

1. 本報告書は、平成5年度に埋蔵文化財の確認調査を実施した市内遺跡の概要をまとめてある。
2. 本事業に係わる経費は、平成5年度文化財補助事業として、国庫補助、県費補助及び市費により計上されている。
3. 本報告書では、平成4年度の報告書に未収録の平成5年2～3月分と平成5年度の平成5年4月から平成5年12月までの28件の確認調査及び発掘調査の概要を掲載する。平成5年12月～平成6年3月までの分は平成6年度の報告書に掲載する。
4. 確認調査及び発掘調査は前橋市教育委員会文化財保護課で行なった。

調査　関口 孝、園部守央、井野誠一、前原 豊、真塩欣一、伊藤 良

戸所慎策、狩野吉宏、新井真典、大山知久、飯島勝亥

整理 井野誠一、伊藤 良

5. 発掘調査に係わる記録類、出土遺物等は前橋市教育委員会文化財保護課で保管している。
6. 確認調査一覧表のうち平成5年度No.9は個人住宅建設に伴う調査「嶺城遺跡発掘調査」であり、項を改めて収録している。
7. 「嶺城遺跡発掘調査」に係わる平面測量は井上測量に委託し、実施した。
8. 文中のB軽石は天仁元年(1108年)浅間山噴出の軽石を意味する。さらに県内ではFA(6世紀初頭榛名山二ツ岳形成時噴出)、FP(6世紀中頃同)、C軽石(4世紀中頃浅間山噴出)が指標とされている。

目　　次

例　　言

目　　次

1. 確認調査地一覧表.....	1
2. 確認調査地位置図.....	2
3. 平成5年度調査の概要.....	2
4. 確認調査の概要.....	3
5. 嶺城遺跡発掘調査の概要.....	17

1. 確認調査地一覧表 (No.15~27は平成4年度分、No.9は嶺城遺跡発掘調査)

(No.は申請順)

No.	所在地	開発面積㎡	開発原因	調査日	調査概要
15	宮地町地内	743	教育施設	5・2・5	遺物・遺構とともに検出されず。
16	箕井町231-1	1,069	未定	5・2・2	遺構なし、土師器片・陶器片出土。
17	西大室町地内	2,690	公園施設	5・2・16, 17	縄文時代土坑検出。協議中。(内堀遺跡群)
18	胸形町1188外	2,406	校庭造成	5・2・8	遺物・遺構とともに検出されず。
19	荻窪町424-1外	3,300	事務所	5・2・25	奈良～平安時代の堅穴住居跡。協議中。(庚申塚遺跡)
20	箱田町字船荷境1147外	6,500	宅地造成	5・3・10	遺物・遺構とともに検出されず。
21	上細井町地内	10,000	公園造成	5・3・2	遺物・遺構とともに検出されず。
22	箱田町518-1外	1,548	宅地造成	5・3・5	近世の陶器片出土。遺構は検出されず。
23	亀里町地内	1,751	道路改良	5・3・12	遺物・遺構とともに検出されず。
24	嶺町地内	7,800	土地改良	5・2・23	縄文時代土器片及び石器出土。遺構は検出されず。
25	西大室町地内	5,500	道路改良	5・3・16, 17	古墳時代堅穴住居跡検出。平成5年度に調査実施。(地田栗III遺跡)
26	広瀬町一丁目27-13	402.83	個人住宅	5・3・19	古墳の基壇面の土層を検出。調査。(前橋天神山古墳)
27	大友町一丁目1-4外	1,159	事務所	5・3・24	遺物・遺構とともに検出されず。
1	高井町一丁目30-3外	1,837.18	事務所	5・5・11	遺物・遺構とともに検出されず。
2	嶺町字十二原1546-3外	1,714	産業廃棄物 中間処理施設	5・6・2	縄文時代堅穴住居跡及び土坑検出。保存。(入替戸・十二原遺跡)
3	元總社町字西川1506外	3,000	土地改良	5・7・20	奈良～平安時代の堅穴住居跡、中世の堀及び土坑検出、協議中。(上野国分寺参道遺跡)
4	西善町640外	9,831	倉庫	5・8・5、6	遺物・遺構とともに検出されず。
5	総社町植野372-1	998	アパート	5・8・12	古墳周囲と埴輪検出。保存(総社二子山古墳)
6	箱田町字古市境361-8	1,257	銀行支店	5・9・2	土師器片検出。遺構は検出されず。
7	田口町585-1外	445	個人住宅	5・9・29	遺物・遺構とともに検出されず。
8	宮地町地内	40,000	学校建設	5・10・7	遺物・遺構とともに検出されず。
9	嶺町字城岸601-2	522.78	個人住宅	5・11・8～16	中世城館跡。(嶺城遺跡)
10	下阿内町92-1外	10,754.27	道路改良	5・11・4、5	遺物・遺構とともに検出されず。
11	富田町1180-1外	5,369	特別養護老人ホーム	5・11・10	遺物・遺構とともに検出されず。
12	箕井町・今井町地内	1,435	道路改良	5・11・15	遺物・遺構とともに検出されず。
13	下阿内町1-2外	10,673.69	道路改良	5・11・25, 26	土師器片・須恵器片出土。遺構は検出されず。
14	上増田町1,052	662	消防施設	5・11・30	遺物・遺構とともに検出されず。
15	川曲町字柳橋153-1外	14,308	学校建設	5・12・9、10	平安時代の水田跡を検出。協議中。(柳橋遺跡)

2. 平成 5 年度調査地位置図

(①～⑯は 5 年度)
(⑯～㉗は 4 年度)



3. 平成 5 年度調査の概要

平成 5 年度は平成 4 年度にくらべ不況の影響により開発件数もへり、それに伴う確認調査も若干減少した。平成 5 年度は前橋市南部での確認調査が多くみられた。

南部地区では水田跡の想定される地点が多かったが、耕作・削平等の要因で検出には至らなかつた。東部でも同様の状況であった。

北部地区では遺構の検出がみられ、1 つは嶺城に係わる調査であり、本調査として実施した。

西部地区でも遺構の検出が多くみられたが、1 つは保存協議書を締結し、他は協議を続けていた。総社二子山古墳西側の調査では、周堀の西側の範囲・規模確認等、貴重な資料を得ることができた。また、嶺城の調査は個人住宅建設に伴うもので、部分調査であったが、中世の城に関する貴重な資料が得られた。

4. 確認調査の概要 (15~27は4年度、1~15は5年度)

(1) 平成4年度

15 宮地町地内

743m² 教育施設

平成5年2月5日

調査の状況

開発予定地は東田遺跡（平成2年度調査）に近接しており、範囲確認の調査を実施した。

調査の結果B軽石層が確認されたため、この面の精査を実施した。しかし、遺構及び遺物は検出されなかった。

さらに、下面での遺構確認を行なったが、遺構及び遺物は検出には至らなかった。



位置図 1万分の1

16 笹井町231-1

1,069m² 未定

平成5年2月2日

調査の状況

開発予定地は今井白山遺跡（平成2年度調査）に近接しているため、確認調査を実施した。

確認調査の結果、B軽石、FA、C軽石の土層が確認された。しかし、いずれの面においても遺構は検出されなかった。

遺物は土師器片及び中世の陶器片を検出したのみである。



位置図 1万分の1

17 西大室町地内

2,690m² 公園施設

平成5年2月16日・17日

調査の状況

調査地は内堀遺跡群内に位置しており、遺跡の状況を確認するため確認調査を実施した。

確認調査の結果、縄文時代の土坑7基と土器片及び石器が出土した。

本遺跡の取り扱いについては現在協議中である。(内堀遺跡群)



位置図 1万分の1

18 駒形町1188外

2,406m² 校庭造成

平成5年2月8日

調査の状況

開発予定地は旧利根川の流域であるが、中州状の高まりになっていたため、確認調査を実施した。

確認調査の結果、北側の高まりからは、表土下に砂質土層と川原石層が検出された。また、南側は厚い砂層(2m)とその下に川原石層が検出された。

遺構及び遺物は検出されなかった。



位置図 1万分の1

19 萩塙町424-1外

3,300m² 事務所建設

平成5年2月25日

調査の状況

開発予定地は庚申塚遺跡地内に所在をするため遺跡の状況を確認するために確認調査を実施した。

また、調査地北側には庚申塚古墳（消滅）が位置していた。

確認調査の結果、奈良～平安時代の住居跡10軒と古墳時代の溝1条を検出した。

本遺跡については現在その取り扱いについての協議を続けている。（庚申塚遺跡）



位置図 1万分の1

20 箱田町字稻荷境1147外

6,500m² 宅地造成

平成5年3月10日

調査の状況

調査地は周辺で水田跡が検出された遺跡が存在する地区にあたり、確認調査を実施した。

表土下30cm地点で厚さ15cmのB灰層とB軽石層が検出されたため、その下面について精査を実施した。その結果、土師器一点が検出されたが、遺構は検出されなかった。

さらに、下面で遺構の確認を行なったが、検出には至らなかった。



位置図 1万分の1

21 上細井町地内

10,000m² 公園造成

平成5年3月2日

調査の状況

調査地は、旧利根川流域にあたる土地であるが、若干の遺物の散布と、B軽石層が検出された地点があるため、確認調査を実施した。

確認調査の結果、B軽石層及びC軽石層が確認されたものの、いずれも水性二次堆積であり遺構を伴うものではなかった。

B軽石層は、北側では厚さ4cmほどであったが、南端では3m以上の堆積となっていた。旧流路跡と考えられる。



位置図 1万分の1

22 箱田町518-1外

1,548m² 宅地造成

平成5年3月5日

調査の状況

調査地は、箱田境遺跡（平成4年度調査）の南に位置し、範囲確認の調査を実施した。

南側の台地上の高まりでは近世の陶器一点が検出されたのみで、遺構は検出されなかつた。

北側の調査区からはB軽石、FPを含む土層が確認されたが、水田跡等の遺構の検出はみられなかつた。遺物も検出されなかつた。



位置図 1万分の1

23 龜里町地内

1,751m² 道路改良

平成5年3月12日

調査の状況

開発予定地は前橋市南部の水田地帯にあり、古代の水田跡の存在が考えられる土地であったため確認調査を実施した。

確認調査の結果、表土下90cmの地点からB軽石層が検出された。しかし、軽石層下には遺構と考えられるものは検出されなかった。

状況からみて工事立ち合いが適当であると考えられ、平成5年12月に工事立ち合いを実施した。立ち合いの結果、遺構及び遺物は検出されなかった。



位置図 1万分の1

24 嶺町地内

7,800m² 土地改良

平成5年2月23日

調査の状況

調査地は市之進遺跡内にあたり、遺跡の状況を確認するために確認調査を実施した。

調査の結果、試掘トレンチ内より縄文時代の土器片及び石器が出土したが、遺構は検出されなかった。

遺構は明確に検出されなかったが、遺物の出土がみられたことから、工事立ち合いを行なうこととし、平成5年3月に工事立ち合いを実施した。立ち合いの結果、本調査地内では遺構は検出されなかった。



位置図 1万分の1

25 西大室町地内

5,500m² 道路改良

平成5年3月16・17日

調査の状況

調査地は、地田栗I・II遺跡（平成元年調査）の南にあたり、その南限を確かめるために調査が実施された。

確認調査の結果、試掘レンチ北側より古墳時代の住居跡1軒が確認された。この南は旧神沢川流路にあたり、遺構・遺物ともに検出されなかった。

本調査地のうち遺跡地と認定された地区については、平成5年度に地田栗III遺跡として調査が実施された。
（地田栗III遺跡）



位置図 1万分の1

26 広瀬町一丁目27-13

402.83m² 個人住宅

平成5年3月19日

調査の状況

調査予定地は前橋市天神山古墳の旧墳丘域にあたる。前橋市天神山古墳は昭和43・44年に調査がなされ、主体部を残し削平されている。

確認調査の結果表土下5~16cmにロームと黒色高粘質土（C軽石を含む）の混土の固く叩き締められた土層が検出された。この土層は古墳の基壇面と考えられ、ほぼ水平に検出された。この土層の下は自然面であった。

この土層については調査の範囲内で調査を実施した。また、古墳にかかわる遺物は検出されなかった。
（前橋天神山古墳）



位置図 1万分の1

27 大友町一丁目1-4外

1,159m² 事務所

平成5年3月24日

調査の状況

開発予定地は、旧国府城の東にあたり、中世城館跡に近接しているため調査を実施した。

確認調査の結果、開発予定地はカクランがみられ、さらに検出された土層からみると湿地であると考えられる。現状は盛り土がなされているが、その下は以前に削平がなされたようである。

遺構及び遺物は検出されなかった。



位置図 1万分の1

(2) 平成5年度

1 高井町一丁目30-3外

1,837.18m² 事務所

平成5年5月11日

調査の状況

開発予定地は、柿木遺跡（昭和58年度調査）及び柿木II遺跡（昭和63年度調査）の北に近接しており、その範囲確認調査として実施した。

調査の結果、表土下1mに多量の廃棄物の層が認められ、開発地全域に認められた。すでに全面的に掘削が及んでおり、遺構及び遺物は検出されなかった。



位置図 1万分の1

2 嶺町字十二原1546-3外

1,714m² 産業廃棄物処理施設

平成5年6月2日

調査の状況

開発予定地は入替戸・十二原遺跡内にあり、その状況をつかむため確認調査を実施した。

確認調査の結果、開発予定地の南西隅より縄文時代の竪穴住居跡1軒及び土坑1基を検出した。

その後本遺跡の取り扱いについて協議を行ない、遺跡地として認められる区域については掘削を行なわず、現状保存をすることで保存協議書の締結を行なった。

(入替戸・十二原遺跡)



位置図 1万分の1

3 元総社町字西川1506外

3,000m² 土地改良

平成5年7月20日

調査の状況

調査地は上野国分寺の南の新川を隔てた南側で、国分寺参道の想定地域（上野国分寺参道遺跡）にあたる。そこで、遺跡の状況をつかむために確認調査を実施した。

調査の結果、奈良～平安時代の竪穴住居跡2軒と、中世の堀及び土坑が検出された。今回の調査区域内では参道と思われるものは検出されなかった。

本遺跡の扱いについては現在協議中である。

(上野国分寺参道遺跡)



位置図 1万分の1

4 西善町640外

9,831m² 倉庫

平成5年8月5・6日

調査の状況

開発予定地は、前橋市南部の水田地帯であるが、古代の水田跡が想定される土地である。

確認調査の結果、表土下25~30cmの地点でB軽石層が検出されたため、この面を中心精査を行なった。しかし、B軽石層も部分的であり、遺構・遺物は検出されなかった。

また、下面の確認でも遺構及び遺物は確認されなかった。



位置図 1万分の1

6 箱田町字古市境361-8

1,257m² 銀行支店

平成5年9月2日

調査の状況

開発予定地は、箱田境遺跡（平成4年度調査）の西に隣接し、現状桃畠となっていた。箱田境遺跡の範囲確認調査として実施した。

確認調査の結果、土師器数点が検出されたものの遺構の検出には至らなかった。



位置図 1万分の1

5. 総社町植野372-1

998m² アパート

平成5年8月12日

調査の状況

調査地は国指定史跡総社二子山古墳の西に位置し、前方部周堀が想定された。

確認調査の結果、調査地の東端に周堀の立ち上がり部が検出された。現墳丘の西のフェンスより約21mの地点で立ち上がっている。

調査地西端までトレンチを設定し確認をしたが堀は一重のみの検出であった。若干の埴輪が出土した。

調査の結果東側が遺跡地と認定されたため事業者と協議を進め、建物の設計変更を行ない、堀にかかる部分は現状保存とすることで保存協議書を締結した。（総社二子山古墳）



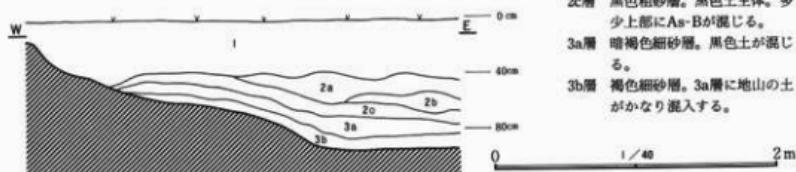
位置図 1万分の1



(総社)二子山古墳周辺図

二子山古墳周堀層序説明

- 1層 オリーブ褐色粗砂層。耕作土でAs-B (1108年降下) を50% 前後含む。
- 2a層 暗オリーブ褐色粗砂層。As-Bが60~70%。
- 2b層 黒褐色粗砂層。As-Bの純層に近い。
- 2c層 黒色粗砂層。黒色土主体。多少上部にAs-Bが混じる。
- 3a層 暗褐色細砂層。黒色土が混じる。
- 3b層 褐色細砂層。3a層に地山の土がかなり混入する。



(総社)二子山古墳周堀セクション図

7 田口町585-1外

445m² 個人住宅

平成5年9月29日

調査の状況

調査地は市指定史跡「塩原塚古墳」の西側隣接地にあたり、周堀の想定地にあたる。ここに個人住宅建設の計画があったため確認調査を実施した。

石室入口を中心北と南に、西に向くトレーナーを設定し調査を実施した。

調査の結果遺構・遺物は検出されなかった。調査前は山林であったが、それ以前は建物もあったとのことで、その時の造成で削平されたものと考えられる。



位置図 1万分の1

8 宮地町地内

40,000m² 学校建設

平成5年10月7日

調査の状況

調査地は、東田遺跡（平成2年度調査）の南に位置し、古代の水田跡が想定される地である。平成4年度に隣接地で確認調査が実施され、遺構・遺物は検出されなかつもののB軽石層が検出されていたため、本調査地でも確認調査を実施した。

確認調査の結果一部にB軽石の面及び水田土壌とみられる土層が認められた。しかし遺構及び遺物は確認されなかつた。戦後すぐに浅間砂（B軽石層）の砂ぬきを行なつたとのことで、その際に削平を受けたものと考えられる。



位置図 1万分の1

10 下阿内町92-1外

10,754.27m² 道路改良

平成5年11月4・5日

調査の状況

調査地は市南部の水田地帯にあり、古代の水田跡の想定される土地である。

確認調査の結果一部にB軽石層及び水田土壌とみられる土層がみられた。しかし、B軽石層も二次堆積の状況がみられ、水田土壌の検出も一部にとどまった。

遺構及び遺物は検出されなかった。

この地は昭和三十年代に土地改良が実施されており、この際に削平された可能性もある。



位置図 1万分の1

11 富田町1180-1外

5,369m² 特別養護老人ホーム

平成5年11月10日

調査の状況

開発予定地は富田遺跡群（昭和54～56年度調査）の西にあたり、若干の遺物の散布がみられたため確認調査を実施した。

確認調査の結果、調査地は現状桑畠であったが、旧山林であった土地を桑園にする際に削平が行なわれていたものとみられ、表土下はハードローム層であった。遺構及び遺物は検出されなかった。



位置図 1万分の1

12 筑井町・今井町地内

1,435m² 道路改良

平成5年11月15日

調査の状況

開発予定地は今井白山遺跡（平成元・2年度調査）の南に隣接しており、その範囲確認調査として実施された。

確認調査の結果一部にB軽石層は確認されたものの、遺構及び遺物は検出には至らなかった。

B軽石層の下面の調査でも遺構及び遺物は検出はみられなかった。



位置図 1万分の1

13 下阿内町1-2外

10,673.69m² 道路改良

平成5年11月25・26日

調査の状況

開発予定地は、開発予定地を含め北側の集落一帯に遺物の散布がみられる。そこで、確認調査を実施することとした。

確認調査の結果、土師器、須恵器片が検出されたものの遺構の検出はみられなかった。No.10の確認調査の隣接地であるが、No.10の地区よりも土層のカクハンが進んでおり、土地改良及びその後の耕作の影響によるものと考えられる。



位置図 1万分の1

14 上増田町1052

662m² 消防施設

平成5年11月30日

調査の状況

調査地は中原遺跡（平成4年度より調査）の南にあたるため、範囲確認調査として行なった。

調査地はすでに盛り土がなされており、旧地表面には若干の削平が認められた。

確認調査の結果、現地表下200cmでB軽石を含む土層を確認した。しかし、この土層は水性二次堆積によるもので、この下からは砂質層及び礫層が検出され、水田土壤とみられる土層が認められなかった。

遺構及び遺物は検出されなかった。



位置図 1万分の1

15 川曲町字柳橋153-1外

14,308m² 学校建設

平成5年12月9・10日

調査の状況

開発予定地は旧条里水田想定地である、村前遺跡（昭和60年度調査）、地蔵前遺跡（昭和63年度調査）に近接しているため確認調査を実施した。

確認調査の結果、平安時代の水田跡が検出された。

開発予定地の北東部及び南端が遺跡地と認められたため、現在その取り扱いについて協議を行なっている。
(柳橋遺跡)



位置図 1万分の1

5. 嶺城遺跡発掘調査の概要

平成5年度 No.9 嶺町字城岸601-2外

522.78m² 個人住宅建築に伴う調査

(1) 遺跡の位置

嶺城遺跡が所在する前橋市嶺町は、前橋市の中心市街地から北東へ約7kmの所にある。遺跡は主要地方道渋川・大胡線嶺十字路より北東0.5kmに位置し、西は藤沢川、東は現在は小流だが谷地状になっている舌状台地の先端部にある。

(2) 遺跡の紹介

嶺城遺跡について詳しく書かれている資料として『前橋市史 第一巻』の中に山崎一氏が執筆した原稿が掲載されている。以下は、今回の調査に関係のある部分を中心に抜粋したものである。

「嶺城は嶺町字城岸（嶺公民館東方）にある丘城で、田中城ともいう。上毛国風土記、上野国誌、上州故城墨記に『北条安芸守の家臣田中大武の古城。』と記されているが、安芸守は高定で、北条高広の父である。

この城の縄を見ると、西側に南北を貫いて走る交通壕（一部は腰郭一山城、丘城で主郭、外側下方に着けられた幅狭い郭となる）をもち、山上城、膳城と同じ系統であると思われる。



図1 嶺城遺跡全体図（山崎氏より）

この城は並郭式（本郭をはさんで一線方向に数郭を並べる築城様式。山城、丘城に多い）の丘城で、本丸は意外な程小さく、南北40m、東西70mにすぎないが、その北に連なる三郭（南から北第二郭、北第三郭、北第四郭と仮称。本丸の南のものは南第二郭、南第三郭と呼ぶ）は大きく、東西の幅、最大200mに及ぶ。南北の全長は500mである。

最北側の壕は直線、その南のものは北に弯曲し、北第三郭は突出部に虎口があり、北第四郭を通して搦手（城の裏の虎口、追手に対する虎口）（城には1つ虎口というのではなく。）を開く。

北第二郭の北の壕には1カ所の「折」があって、その東側が虎口になっていたものと思われる。

北第四郭では西側だけに帯郭（主郭の外側

に堀を距てて着けられた幅せまい郭) がついているが、北第二郭では東西ともに構えられていたらしい。その東側のものは今は掘り崩されて民家が出来ている。ここには第二郭に上げる樹形虎口様のものがあつたらしい遺構が見られる。」

(3) 調査に至る経緯

本発掘調査は、土地所有者である田中正美氏の個人住宅建築に伴う危険防止のための地盤除去工事に先立って行われたものである。この調査は、平成5年7月26日に田中氏より「嶺城遺跡」地内における土木工事等に関する埋蔵文化財の取り扱いについて相談を受けて以来協議調整を重ねた結果、前橋市教育委員会直営で実施するに至った。

なお、田中正美氏のご家族の方々には現況測量範囲内の下草刈りをはじめとし、発掘調査に実施にあたっては、重機の搬入路の確保、休憩場所の提供等多大な協力をいただき、調査が順調に無事終了できたことに深く感謝いたします。

(4) 調査の方針

調査実施にあたって、まず事前に掘削範囲内及びその周辺を含めた約1,000m²の部分の現況測量を実施した。発掘調査は、調査対象箇所の現状が崖の上の際であるため崩壊防止や調査の安全確保の面から、現況測量終了後掘削範囲を中心にして3本のトレンチを設定するトレンチ調査とした。調査は、緊急調査という期間的制約や壕が深いことが予想されたため掘削用重機を用いて表土並びに壕の覆土の除去を行い、壕の最深部並びに精査についてはすべて手作業で行った。実測は、すべてのトレンチに関して平面図(縮尺1/40、0.2mセンター)と土層図(縮尺1/20)を作成した。

月 日	調 査 工 程
11／8(月)	
9(火)	■ 基土削削 ■ 埋め戻し
10(水)	
11(木)	
12(金)	■ 基土削削 ■ 埋め戻し
13(土)	
14(日)	
15(月)	■ 基土削削
16(火)	■ 埋め戻し



図2 発掘調査経過図

(5) 調査経過

10月8日「埋蔵文化財発掘調査に関する協定書」締結以降、10月28日から業務委託で現況測量(縮尺1/200、0.5mセンター)を実施した。その間にトレンチの設定、調査用品の準備等を行い、田中氏による重機の搬入路確保後、11月8日(月)からトレンチ調査を開始した。同日、1トレンチよりミニユンボによる表土掘削並びに壕の覆土の除去を行い、それに追従して手作業による掘り下げ、土層観察、精査を行った。壕が深かったため、壕の掘り下げ・土層図の作成に困難をきたしたが、12日にはトレンチ平面測量、16日にはトレンチの埋め戻しを済ませ、実質7日間で、調査を終了した。

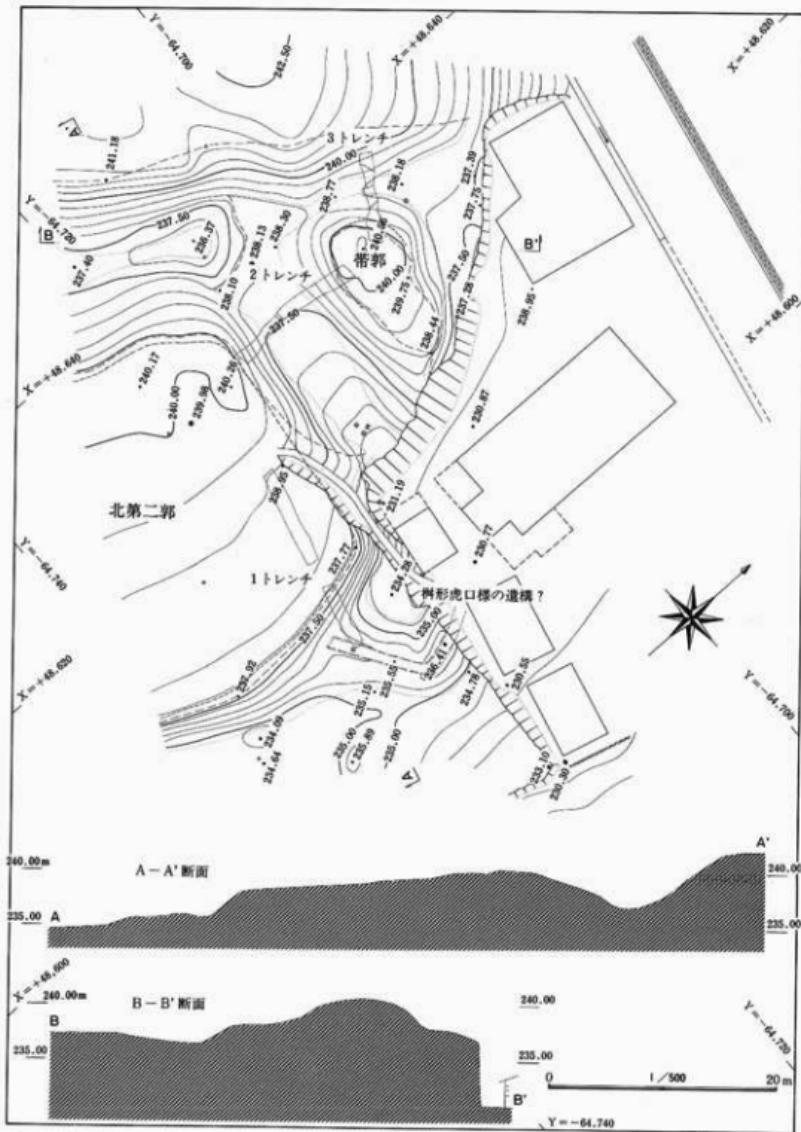


図3 嶺域遺跡現況図

(6) 遺構と遺物

土木工事等による掘削範囲が、山崎一氏の説の北第二郭の南の壕と北第二郭東側の平坦部分、北第二郭の東の壕、さらに東側の帶郭（現在は掘り崩されて民家ができるおり、その残りが部分的にみられる。）と北第三郭の東側の南の壕の部分に及ぶ。そこで、掘削範囲を中心に壕の深さと幅・形状、帶郭の有無、さらに北第二郭の平坦部分上の施設の有無等について調査するために、3本のトレンチを設定した。南から1トレンチ・2トレンチ・3トレンチと呼称する。

1トレンチ（北第二郭の南の壕から北第二郭東側縁きわの平坦部分に入れたトレンチ。）全長14.9m・幅1.1m、調査面積は約16.4m²。

南側のトレンチでは、南の壕の底まで検出することができなかつたが、トレンチ内で確認できた壕の最深部の標高は232.60mまで達しており、北第二郭の南きわ平坦部分の検出面からの深さは5.5mに及ぶ。壕の北第二郭側の傾斜角度は42°で、壕は地山のHr-HP層（上面の標高236.00m・下面の標高235.33m）、さらに大胡火碎流層（上面の標高234.00m）を深く掘り込んでつくられていた。なお、覆土の上層部に大胡火碎流層がみられ、明治期に田中氏先祖が宅地にする際に出土した土砂をこの付近の壕の部分に搬出したことがわかつた。

北側のトレンチでは、北第二郭の平坦面が検出された。検出面は現地表面から30～50cm下にあり、検出された平坦面の傾斜角度は3°でやや北から南に傾斜している。また、平坦面の掘り方の調査を実施したところ、トレンチ南西隅からベッド状の高まりを検出した。北第二郭の平坦面は、まず地山をハードロームまで削平し、その後ローム土と黒色土を用いて平らに形成したものと考えられる。

なお、現況から1トレンチの南側に樹形虎口様の遺構がみられたが、重機の搬入路になつたため、今回のトレンチ調査ではその存在の有無を確認できなかつた。

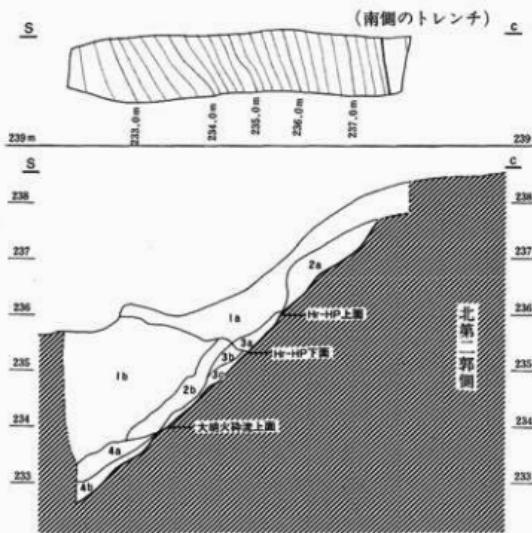
出土遺物は、北側のトレンチから鉄滓（最大長5.4cm・最大幅3.7cm・最大厚32g）（図4）1点と瓦器片3点の外に、縄文時代早期と前期の土器片数点と磨石や使用痕のある剝片等が数点であった。

2トレンチ（北第二郭と東側の帶郭間の壕の部分に入れたトレンチ。）全長12.4m・幅1.1m、調査面積約13.6m²。

壕は、下幅が0.24mと狭くV字状に立ち上がる薬研堀状に掘り込んで造られていた。壕の最深部の標高は234.22mで、北第二郭北側きわ（標高239.9m）からの深さは5.7m、傾斜角度は47°で北第二郭側の地山のHr-HP層（上面の標高237.58m・下面の標高236.57m）、さらに大胡火碎流層（上面の標高236.08m）を深く掘り込んでいる。また、帶郭南側のうわば（標高239.4m）からの深さは5.2m、傾斜角度は38°で帶郭側の地山のHr-HP層（上面の標高238.09m・下面の標高237.63m）、さらに大胡火碎流層（上面の標高236.40m）を深く掘り込んでいる。壕の幅は、北第二郭北側きわから帶郭側のうわばまでの距離で12mとなり、壕は北第二郭側のほうが急傾斜になるよう掘られていた。なお、このトレンチの覆土の上層部にも大胡火碎流層がみられた。

1 トレンチ

- 崖壁遺跡の堆並びに郭の層序説明
- 1a層 褐色細砂の表土層。竹や木の根が繁茂し、枯れ葉が腐殖した層。
 - 1b層 灰白色粗砂層。明治期の東側屯地造成に伴う残土。大胡火砲流（約6万年前）主体。
 - 1c層 黄褐色細砂層。
 - 2a層 黄褐色細砂層。ローム土主体。
 - 2b層 暗褐色微砂層。ローム土主体。
 - 2c層 黑褐色粗砂層。2b層にAs-B（1108年降下）を30~40%含む黒色土が混じる。
 - 2d層 暗褐色微砂層。ローム土主体。
 - 3a層 黄色粗砂層。Hr-HP（約4~4.2万年前）を50%から純層に近い部分。
 - 3b層 暗褐色微砂層。ローム土主体。Hr-HPを少量含む。
 - 3c層 明黄褐色微砂層。ローム土主体。
 - 3d層 暗褐色粗砂層。2c層にHr-HPが少量が混入したもの。
 - 3e層 黄褐色粗砂層。3a層と3c層の中間でHr-HPが20~30%混じる。



2 トレンチ

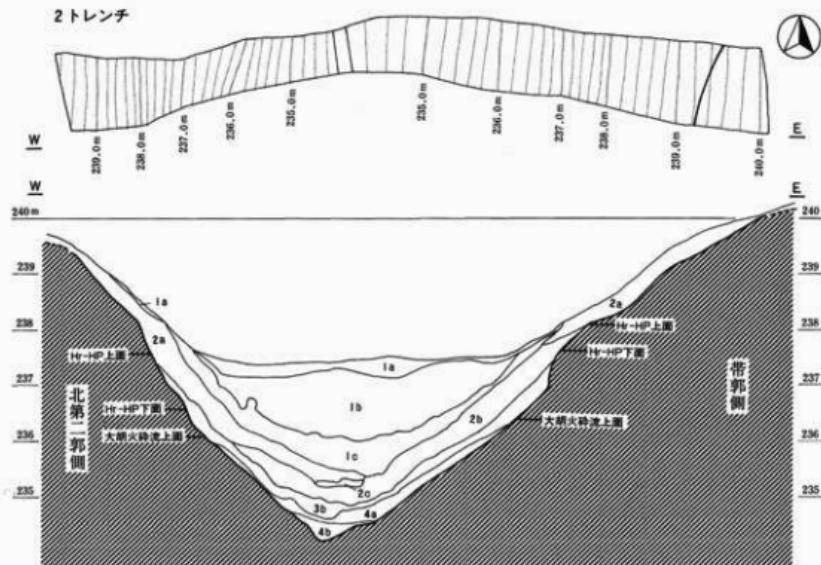
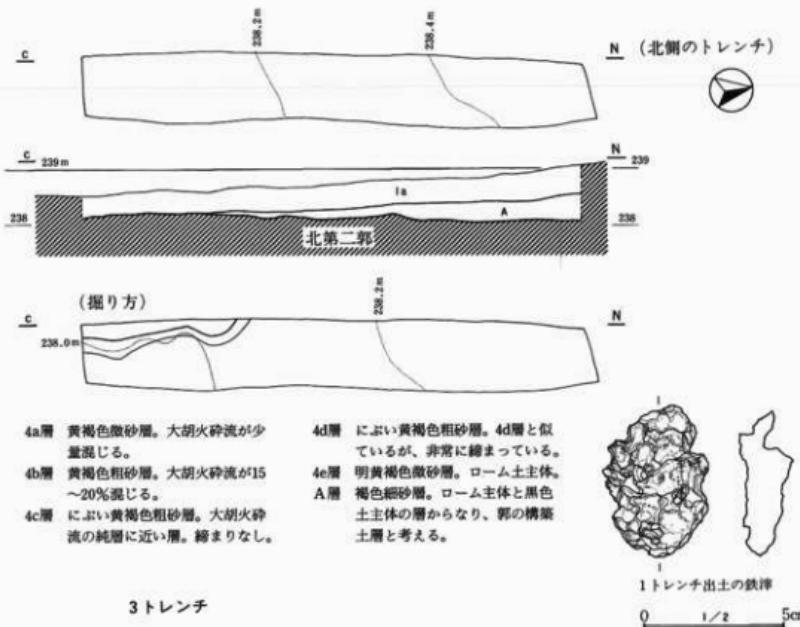
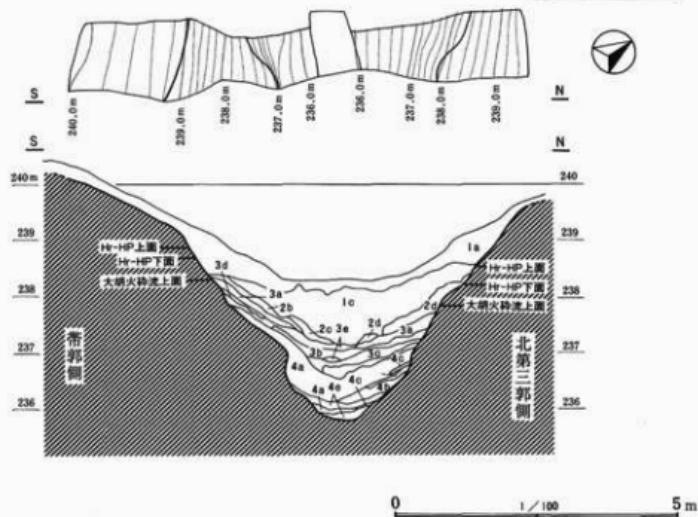


図4 1～3トレンチ平面図・セクション図



3 トレンチ



出土遺物は、嶺城遺跡に関係するものはみられず、覆土の上層部より近代以降の茶碗等の破片が数点あったのみである。

3 トレンチ（東側の帯郭と北第三郭間の壕の部分に入れたトレンチ。）全長8.1m・幅1.1m、調査面積約9.0m²。

壕は、下幅が0.74mでV字状に立ち上がる薬研堀状に掘り込んで造られている。壕の最深部の標高は235.86mで、帯郭北側のうわば（標高239.1m）からの深さは3.2m、傾斜角度は52°と急傾斜で帯郭北側の地山のHr-HP層（上面の標高238.88m・下面の標高238.71m）、さらに大胡火碎流層（上面の標高238.30m）を深く掘り込んでいる。また、北第三郭側の傾斜角度も52°と急傾斜で立ち上がり、北第三郭側の地山のHr-HP層（上面の標高238.53m・下面の標高238.22m）、さらに大胡火碎流層（上面の標高237.83m）を深く掘り込んでいる。壕の幅は、標高238～237m付近でトレンチの東側が西側より狭くなっている。また、帯郭と北第三郭間の渡り状の施設のようなものがあったことが推測される。なお、このトレンチの覆土の上層部からは大胡火碎流層がみられなかった。

出土遺物は、嶺城遺跡に関係するものはみられず、縄文時代の石斧等が数点あったのみである。

（7）まとめ

嶺城遺跡は並郭式築城の全貌をほぼ完全に現在まで伝えている極めて貴重な遺跡であることは周知の事実である。今回の発掘調査は、田中氏自宅の北側及び西側が8mを超える崖で急傾斜地崩壊危険地区に指定されており、田中氏の生命・財産の確保のため緊急に実施したもので、遺跡の掘削範囲は安全な法面が確保できる必要最低限の範囲とし、調査対象箇所の立地条件や期間等の制約のなかで行われた調査である。したがって、嶺城遺跡全体からみると、ほんの一部分（北第二郭の東側）の調査、しかもトレンチ調査にすぎなかったが、今回の調査で次のことが明らかになった。

- ・山崎一氏が『前橋市史』で述べている北第二郭東側の帯郭の存在とその西・北にある壕の形状と帯郭側からの壕の深さ。

なお、樹形虎口様の遺構の存在については現況からも想定できるが、今後掘削時の工事立ち会い調査でその実体を明らかにしていきたい。

参考文献

『前橋市史 第一巻』 第四編 中世 「10 嶺城」 p.1026～1028



1. 田中宅北側の崖の様子(北東から)



2. 北第二郭から帯郭にかけての様子(南東から)



3. 東側の帯郭と北第三郭間の壕の様子(北西から)



4. 東側の帯郭と北第二郭間の壕の様子(西から)



5. 3 トレンチ掘り下げ終了時の状態(西から)



6. 2 トレンチ掘り下げ終了時の状態(西から)



7. 3 トレンチのセクション(北西から)



8. 2 トレンチのセクション(北から)

写真図版 2



1. 北第二郭南の塙の樹形虎口様遺構？(北から)



2. 北第二郭東側の様子(北から)



3. 1 トレンチ(南側)掘り下げ終了時の状態(北から) 4. 1 トレンチ(北側)掘り下げ終了時の状態(南東から)



城跡発掘調査抄録

フリガナ 遺跡名	フリガナ 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
城	群馬県前橋市 城町字城岸	10201	5C-9	36°26'10"	139°6'42"	1993.11.08 1993.11.16	39m ²	個人住宅建築 に伴う工事

遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
城	城館跡	室町・戦国	第二郭東側 (南北の塙と帯郭部分)	室町・戦国時代…鉄鋤・瓦器片	

平成5年度 市内遺跡発掘調査報告書

平成6年3月25日印刷

平成6年3月30日発行

発行 前橋市教育委員会文化財保護課

前橋市上泉町664-4

印刷 上毎印刷工業株式会社

前橋市天川大島町305-1